

2015 年 12 月 26 日

カザネシュティ村「子どもデイケアセンター」に対する支援（2015 年度）

一般社団法人モルドバジャパン

モルドバでは、人口の凡そ 50%が出稼ぎのため長期に亘り国外に出て行ってしまおうと言われています。家に残された子供たちは思春期を孤独なうちに過ごさねばなりません。

モルドバジャパンは 2015 年 9 月における任意団体として発足当初より、こうしたモルドバの子供たちの生活・教育環境向上への協力の一環として、首都キシナウから約 90 km北西に位置するカザネシュティ村の学童保育施設「子どもデイケアセンター」への支援を実施しています。センターは同村の小学校内に置かれていますが、全校生徒の中から特に家庭が貧しい子どもや、親が国外に出稼ぎに行っている子供たち凡そ 30 名を対象に、放課後に宿題、給食の世話をしています。

2015 年 11 月、モルドバジャパン雨宮会長、川村理事及び正会員川口光博氏 3 名がモルドバを訪問し、同センターに対する 2015 年支援事業として以下の活動を行いました。

1. デイケアセンター運営費支援

キシナウ市内のモルドバ日本文化文明協会事務所において、同センター運営責任者の一人である同協会理事長ライサ・ブラドゥツァーヌ女史他と、日・モルドバ関係の推進及びデイケアセンター運営等について意見交換を行うと共に、モルドバジャパン 2015 年度支援金として、\$2,800 余りを交付しました。

またその後、モルドバジャパン及び同協会共催により、同月 23 日同市サラ・ク・オルガ音楽堂において開催された「フジコ・ヘミング モルドバ公演」の入場料収入の一部\$500 を追加交付することができましたので、合わせて\$3,300 余りを 2015 年支援金としてセンターに贈ることができました。

2. デイケアセンター訪問

雨宮会長、川村理事、川口会員、及び同時期モルドバ滞在中であった松富祥子氏（フジコ・ヘミング氏マネージャー）の 4 名が、11 月 21 日、ライサ・ブラドゥツァーヌ女史他の案内で同センターを訪問しました。センターでは子供たちの学習発表会及び昼食会に参加すると共に、カザネシュティ村小学校の校長先生始めが現場の先生方との親交を深め、子供達の生活や学習を見学する良い機会となりました。また、日本のデイケアセンター支援者から預かった日本のお菓子を手渡すと、子どもたちはその珍しさにとても喜んでいました。

3. コンサートへ子たちを招待

11月23日のサラ・ク・オルガ音楽堂での「フジコ・ヘミング モルドバ公演」にセンターの先生4名と共に30名（うち、センター卒業生3名）の子供たちを招待しました。子供たち全員にとって、本格的なクラシック音楽を立派な音楽ホールで聴くのは初めての経験とのことで、子どもたちは皆真剣な面持ちで演奏を聴いていました。センター関係者からはこうした貴重な機会を与えてくれたことに繰り返し感謝の意が表されました。この場を借りまして、フジコ・ヘミングさん、また子どもたちを招待するためにご支援くださった相馬威宣正会員の暖かく、寛大なご配慮に厚くお礼申し上げます。



2015 年度運営費支援の交付



デイケアセンター入口で出迎えてくれた子どもたち



学習発表会の様子（詩の朗読）



学習発表会の様子（踊り）



「日本に行ってみたい人？」との問いかけに元気よく手を挙げる子どもたち



支援者からの日本のお菓子を渡す様子
(どのお菓子をもらえるのか真剣に観察している子どもたち)



子どもたちにご飯を取り分ける給食のおばさま



給食を食べる子どもたち



モルドバジャパンの広報用チラシを受け取る子どもたち



カザネシュティ村の入り口での訪問者集合写真



フジコ・ヘミングモルドバ公演（於：首都キシナウ市）



子どもデイケアセンターの子どもたち（含卒業生）
（センター担任の先生と）



演奏後に花束を渡しに行くセンターの子どもたち



花束を渡すセンターの子どもたち



公演後に大人になって拍手するセンターの子どもたち